

# 米国における交通違反の取締り

ニューヨーク事務所

米国では、日本でいう道路交通法が州単位で規定されています。ただし、交通違反の取締りを警察官や後述する保安官が主体として行っているのは、どこの州でも同じようです。

ここでは、米国のとある法執行機関における交通違反の取締り事例を踏まえながら、交通違反の取締りに係る日米間の違いなどについて検証します。

## 1 取締りの現場

検証にあたっては、米国ニュージャージー州の北部に位置するハドソン郡を管轄する Hudson County Sheriff's Department の取締り事例を参考にしました。

米国では、通常、County (郡) 単位の法執行機関として Sheriff's Department が存在しており、これは市町村を管轄する Police Department と組織を異にしています。Sheriff's Department には、住民から選挙によって選ばれる Sheriff (保安官) の下で働く実働員がおり、彼らは日本語に置き換えると「副保安官」と訳されることが多いようです。

ところで、米国における交通違反取締りの一般的な手法ですが、これは日本と同様に、警察官等による違反の確認⇒違反車両の呼び止め⇒反則切符 (以下「切符」という。) の交付という流れになっています。

Hudson County Sheriff's Department の副保安官も、一時停止の標識に従わなかった車両を停止させた後、運転席に座っている違反者に対して免許証と車検証の呈示を求めていました。そして、副保安官は免許証等の呈示を受けた後、近くに停めてあったパトカーに戻って切符を作成し、違反者に交付しています。

日本と大きく違うのは、切符を交付する際、副保安官が違反者に対して違反を認めるか認めないかという意思確認を行わず、切符に署名を求めることもしていないという点です。日本では、警察官は切符を交付する際、違反者に違反事実を認めるか否かの確認を行い、違反者が違反事実を認める場合には、切符の末尾に署名及び押印を求めています。

反則切符 (NJ州) の見本  
<http://www.njdwi.legal.com/nj-dwi-arraignment-process/>より。

事例の副保安官は、違反に係る管轄裁判所がどこになるかについて、切符の裏面に記載さ

れている裁判所リストの内の一つに印をつけながら違反者に教示するのみでした。つまり、違反者が違反を認めるか認めないかというのは裁判所の段階で違反者に聞けば足りる事であって、取締りの現場でそこまで確認する必要はないというのが地域（ハドソン郡）における方針のようです。

## 2 反則金の支払方法

事例で交付された切符には、違反日時・場所、違反者の氏名・住所・生年月日、違反車両のナンバーといった違反者に係る事項のほか、違反の態様、出頭すべき裁判所の所在地や電話番号、出頭日時、及び反則金の額などが明記されています。

違反者が指定された出頭日時までに反則金の支払手を済ませれば、その時点で裁判所への出頭義務は無くなります。ただし例外として、赤字で Court Appearance Required と書かれている欄（切符左下）のチェックボックスに印が付けられている場合には<sup>1</sup>、たとえ違反の事実を認める意思を有していても、違反者は指定された日時に裁判所まで出廷しなくてはなりません。

反則金の支払方法については、以下の3通りが存在します。

- ① オンラインにより支払う。
- ② 指定された裁判所に小切手もしくはマネーオーダー<sup>2</sup>を送付する（現金の送付は不可）。
- ③ 指定された裁判所に出向き、窓口で直接支払う。

また、前述のとおり、支払期限は切符に明記されている裁判所への出頭日時までとされていますが、違反事実を否認して裁判所での弁明を希望する場合には、切符に記載されている出頭日の7日前までに、その旨を出頭すべき裁判所に連絡しなければなりません。

なお、事例の指定場所一時不停止の場合、反則金は\$85.00 と規定されています。

## 3 便利なオンライン支払

オンラインによる反則金の支払は、裁判所のウェブサイト ([www.njmcdirect.com](http://www.njmcdirect.com)) を介して行うことができます。

同サイトにおいて、あらかじめ切符に記載されている個別番号及び違反車両のナンバーを入力すると、違反者の氏名や違反態様といった違反事実に係る詳細が画面に表示されます。その内容に誤りが無いことを確認し、あとはクレジットカードの番号を入力して決済ボタンをクリックさえすれば、簡単に支払を済ませることができます。ただし、オンラインによる支払には手数料が生じ、事例のような指定場所一時不停止では、\$2.00 の手数料が発生します。

手続は非常に簡単ですので、インターネットの扱いに慣れた人であれば、おそらく3分もかからずに処理を終えることができるでしょう。

<sup>1</sup> 指定場所一時不停止の違反では、当該チェックボックスに印は付されない。

<sup>2</sup> 為替の一種。スーパーやコンビニなどで購入できる。

**New Jersey Courts**  
Independence • Integrity • Fairness • Quality Service

Search for Traffic Ticket or Time Payment Order

To view or pay your ticket(s) or time payment order, please enter the following information from your ticket.  
Upon completion press the "Continue" button below.

Court ID	Ticket Prefix	Ticket Number	License Plate Number
2222	XYZ	000000	

Municipal Court of Anytown  
123 Main Street  
Anytown

YOU ARE HEREBY SUMMONED TO APPEAR BEFORE  
THE COURT, JUDGE AND CLERK OF COURT

Make of Vehicle: Year: Lic. Plate No.: State:

For additional help you can view [Full Ticket Samples](#) or a [Time Payment Order Sample](#).  
View information regarding the [NJ Point System](#).

Continue

Privacy Statement | Accessibility | © Copyright NJ Judiciary 2007

オンラインによる反則金支払の画面 ([www.njmcdirect.com](http://www.njmcdirect.com))

#### 4 オンライン支払の有用性

冒頭でも述べたとおり、米国では州単位で交通法規を設けているため、今回の事例＝米国共通の手続と解することはできません。しかしながら、これまで検証してきたように、米国の交通違反取締りは日本のそれと比べると簡単かつ合理的に運用されているという印象を強く受けます。

その中でも、反則金の支払をオンラインで済ませるシステムは注目に値します。日本では、反則金の支払をオンラインで行うことはできず、違反者が納付書を持参した上で、指定の金融機関にまで足を運ばなくてはならないのが現状です<sup>3</sup>。しかしながら、違反者の中には、時間帯が限られている金融機関の窓口へ赴く暇がなく、それによって納付のタイミングを逃している人も多いと思われます。

もし、日本でもオンラインによる反則金の支払手続が可能になれば、こうした違反者の手間を省くことはもちろん、それに伴って納付率も上がり、結果として未納付に係る事務を軽減させることにつながるなど、二重三重の効果が見込まれます。

警察業務におけるITの利用価値とは、新たな技術の活用によって業務の軽減を図り、それによって生じた余力を別の課題に割り振ることで、さらなる治安の向上につなげていくことにあります。そういった観点からすれば、オンラインによる反則金の支払システムは時代の流れに即したものであり、日本でも本格的な導入を推進すべき段階に来ているのかもしれない。

(松重所長補佐 警視庁派遣)

<sup>3</sup> 2014年6月11日現在。 <http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/kotu/noufu/noufu.htm>